

就 任 挨 拶

副 会 長
辻 村 英 雄



ただいまご紹介にあずかりました辻村でございます。今年から副会長という要職につかせていただきました。身の引き締まる思いでございます。少し簡単にご挨拶だけさせていただきますと思います。

先ほど江藤様のほうからもお話がありましたけれども、私も食品・お酒の企業でございまして、まさしく知財からは最も縁遠い世界だったわけでありまして。しかしながら、昨今、ここ7、8年のことでございますが、業界の状況に変化がございまして、飲料・酒類業界というところにもまさしく知財、知的財産権というのが極めて重要であると

の認識が急激に社内でもできてまいりました。

私はずっと研究開発、商品開発畑で歩んでまいりましたけれども、ここ数年前から、先ほど会長のほうからもお話がありましたけれども、研究開発と知財というのは両輪であり、その知財も担当しろということで、まさしく事業戦略、商品開発戦略、そして、知財戦略という三位一体の構造で今、取り組んでいるわけでありまして。

こういう業界はもともとノウハウの塊だということで、我々はこれまでノウハウという言葉の上にあぐらをかいておりました。ノウハウというのは、私が100年ぐらい考えても気がつかないのがノウハウのはずなのに、すぐ気がつくようなこともノウハウだという話で、一体ノウハウとは何ぞやというところが非常にあいまいなまま、楽な道を選んできたのではないかという反省のもとに、まさに知財、知的財産というものを一生懸命これからやっといこうとここ何年か取り組んでいるわけでございます。

先ほど竹中会長からもお話がありました、まさしく未曾有の経済不況、危機の中にいるわけでありましてけれども、皆さんおっしゃっていますように、こういうときだからこそ、研究開発、いわゆる知的財産の創出、知的財産権の確保・活用、さらには人材育成、この3点に企業としては全力を投入すべきであろうと思っております。

ちょっと前の『日経ビジネス』の記事で、堀場製作所さんの堀場雅夫会長が「正しい冬眠の仕方」ということを一番最後のページに書いておられました。まさしくこういう時期に、今までやってこられなかったことに一生懸命資本を投入する、そして、人材を育成する。こういうことをきちっとやった企業こそが雪解けを待った春に大きく飛躍できるという、先ほどの竹中会長の言葉とまさしく同じでございますけれども、そういうふうにあります。

そういう意味では、今年、研修費の予算が30%ダウンというのが非常にいかなものかなと思っております。人材育成というのは極めて大事なポイントでございますし、これを外してい

っとき休んでしまえば、取り返すのにものすごい時間がかかるということですので、その辺のことを一生懸命、我々も強化をしていきたいと思っている次第であります。

微力ではございますけれども、これから協会のますますの発展のために努力をしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

